

カルガリー大学との学術交流に関する報告 A Report on the Academic Exchange at the University of Calgary

城所収二

Shuji Kidokoro

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 8, 284-285, 2011年, 受付日:2011年10月4日, 受理日:2011年10月4日

2011年9月7日(水)から2011年9月9日(金)の3日間, カナダのカルガリー大学との学術交流活動に参加した. 今回の学術交流の目的は, 早稲田大学グローバル COE プログラムにおいて箇所間協定を結んでいるカルガリー大学キネシオロジー学部のスポーツ科学の研究・教育の現状について調査すること, ならびに我々のこれまでにやってきた研究成果を発表することであった.

訪問2日目には, 我々にとってのメインイベントであるカルガリー大学キネシオロジー学部におけるヒューマン・パフォーマンス・ラボラトリー主催の『Life and Sport Sciences Symposium』が開催された. このシンポジウムでは, 早稲田大学の大学院生7名を含めた計20名がポスター発表を行った. 筆者自身, 英語での発表は, 第5回国際シンポジウムに続いて2度目であったが, これまで海外での発表経験がなく, かつ英語に対して苦手意識があったため, 正しく質問を聞き取ることができるか, また聞き取った内容を正しく英語で回答できるかなど, 非常に大きな不安感を持って臨んだ. しかし, 自信がないながらもできる限りの対策をとって臨もうと思い, 質疑応答での考えうる質問事項とその回答をあらかじめ50個ほど用意した. 当初の予定であった5分間のフラッシュプレゼンテーションは行われなかったが, 2時間たつぷりと質疑応答に時間を費やすことができた. 筆者の発表は, 野球のバッティングに関するテーマであり, 現地で行われていない研究内容であったが, 核心をついた質問が多く, 知識の豊富さなど, カルガリー大学のレベルの高さを感じた. 一方で, 適切に

聞き取ることができなかった質問や, 自分自身の伝えたいことを十分に伝えられなかった質問もいくつかあったことから, 自身の研究内容以前に, 日頃の英語学習の不足を痛感した. 現地学生の発表は, 筋原線維のメカニクスや軟骨細胞の粘弾性, 靴の影響によるウォーキング時の膝関節負荷など多岐にわたって行われていたが, どれも素晴らしく, 筆者とは専門分野が異なるが, 着眼点や研究に対するアプローチなど大変参考になった. また, 現地の学生は質疑応答に対して非常に積極的であり, この面も学ばなければならないと感じた.

カルガリー大学訪問中は, メインイベントである研究発表の他に, キネシオロジー学部の施設見学を行った. 往路のトラブルで到着が1日遅れてしまったため, 予定通りの施設見学は行えなかったが大半の施設を見学することができたため, 現地関係者の方々の柔軟な対応に感謝したい. バイオメカニクスの研究領域には超高倍率の顕微鏡を用いて摘出した筋繊維に作用する力を測定する装置などがあった. 筆者自身の研究室においても超音波測定装置を用いて, 筋の形態的・力学的特性を計測しているが, この顕微鏡を用いることで数 μm という小さな対象物を観察できるため, より筋収縮のメカニズムに迫ることができるという. この他にも神経科学や脳科学, 生理学的な側面から計測することができる装置を見学することができた. ここまで実験機器が揃っている大学は世界でも数少なく, 研究機関として非常に魅力的だった.

また、1988年のカルガリーオリンピックの開催地でもあるオリンピックパークの施設見学も行った。施設内にはオリンピック当時のスキージャンプ台やボブスレーのコースがある他に、新設されたアイスホッケーのリンクが4面あり、そこでは子供たちがアイスホッケーの練習を行っていた。また、スポーツ施設だけでなく、学校教育を受けられる施設が隣接しているため、総合的にみたアスリートの育成に相当な力を入れていることが窺えた。

今回の学術交流活動は、筆者にとって初めての体験ばかりで、経験することが目的のようになってしまったが、次回以降このような機会が与えられ

た際は、さらに有意義なものすべく、これまで以上の研究活動に加えて、語学力の強化が必要であると強く感じた。

最後になりましたが、カルガリー大学との学術交流を通して貴重な体験を支援して頂いた早稲田大学グローバル COE プログラムに感謝を申し上げるとともに、拠点リーダーである彼末一之先生、教育推進部門長である中村好男先生をはじめ、引率していただいた川上泰雄先生ならびに宮本直和先生に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

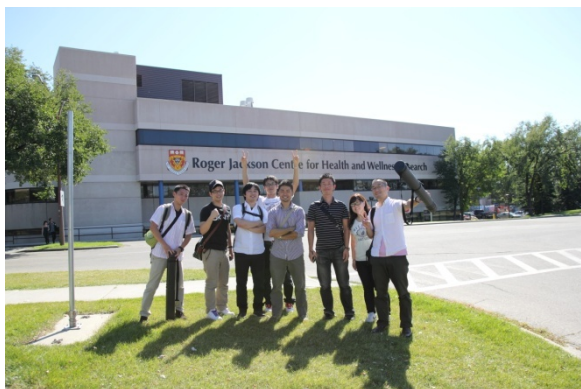


写真 1

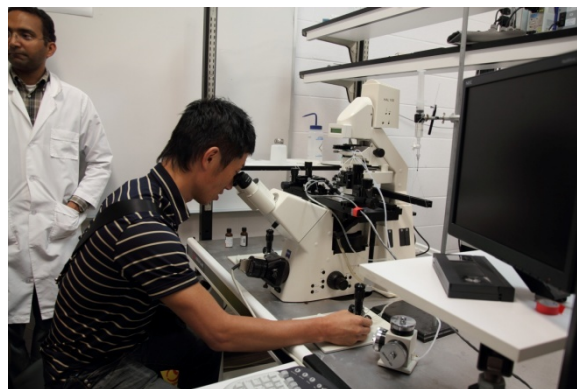


写真 2